

# 声明

## らいてうのころざしを生かし、ウクライナ・ガザ・世界に平和を

2024年5月25日

NPO法人平塚らいてうの会第25回通常総会

ロシアによるウクライナ侵略、イスラエルによるガザのジェノサイド（集団殺害）の継続は、多くの女性や子どもを含む犠牲者をうみだし、世界中に戦争の脅威と不安を増大させています。国際社会は、国連憲章、国際法に基づく平和的解決のために力を尽くさなくてはなりません。

当会は、2001年の発足以来、平塚らいてうのころざしを現代に生かすために活動しています。らいてうはその生涯を通じて平和・協同・自然を愛し、女性の自立を願って行動しました。とりわけ戦後の新憲法が「家制度廃止」とともに「軍備撤廃、戦争放棄」を宣言したことに強く共鳴し、憲法9条に基づく「非武装・非交戦」、原水爆禁止、日米安保条約反対、軍事基地反対を訴え続けました。同時に、参政権を得た女性は日本と世界の戦争と平和に責任があることを強調し、そのことに将来への希望を見出してもいたのです。

ウクライナ、ガザの惨状から、「軍事で紛争は解決できない」「戦争を起こしてはならない」ことは誰の目にも明らかです。日本政府は、悲惨な大戦の体験に基づき戦争放棄を宣言した憲法をもつ国として、ウクライナ、ガザへの軍事行動の停止、軍事ではなく外交による平和的解決、アジアと世界の平和のための道を積極的に提唱すべきです。

ところが岸田政権は、敵基地攻撃能力保有、軍事費倍増、武器輸出解禁などの軍事拡大政策を国民の意思を問うこともなく強行し、大軍拡の財源のために社会保障削減、大増税を進めようとしています。いずれも明らかな憲法違反であり、東アジア地域の軍事的緊張を強めるものです。日本を「戦争する国」にする「戦争の準備」はすでに着々と進められているのです。

昨年当会は、らいてうのころざしを生かすため、二つの声明「日本を『戦争する国』にしない」（5月27日第24回通常総会）、「イスラエルはガザのジェノサイドをやめよ」（11月21日）を発表し、ロシア、イスラエル大使館等に送付しました。

武力で平和はつくれません。「戦争を起こしてはならない」—今、世界でも日本でも、軍事によらない平和、ジェンダー平等を求める新しい力が生まれています。こうした動きと力をあわせ、当会として、また会員一人ひとりが平和への発信を強め、草の根から連帯を広げるために行動することを、引き続き呼びかけます。